

全学内部質保証委員会検証における意見への対応

部局等：連合教職開発研究科

評価結果における意見等 <small>(※問題点や改善を要する事項、改善が望まれる事項等)</small>	対応状況
<p>すべての外部評価委員が「学校拠点方式」の良さを理解し高い評価を与えている。その一方で福井大学の取組がガラパゴス化しているのではないかと指摘もあった。つまり、福井県という孤立した環境で最適化が著しく進行すると、外部との互換性を失いかねず、仮に外部から優れたシステムが流入することがあると、最終的には淘汰されてしまうことを危惧しての発言だと思われる。これからの取組みが、福井大学の中で閉じてしまわないように他大学と連携協働して学校拠点方式を全国に広めること、海外に日本型学校教育と教師教育システムをセットで展開することを一層進めていかなければならない。フラッグシップ大学の採択は絶好の機会であると思われる。</p>	<p>福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科は現在、3大学の連合による協働の教育課程編成によって、福井県に閉じない関西圏・近畿圏への「学校拠点方式」による教師の生涯にわたる養成・採用・研修の一体化システムの普及・構築に努めているところである。また、中部圏では2024年度より富山国際大学と連合の教育課程を開始し富山県及び石川県の学校及び市町教育委員会との連携を進め、関東圏の1都3県、さらに北海道・沖縄県に研究科の連携校をもって上記システムの全国的な普及・構築に努める。こうした展開を教員養成フラッグシップ大学の指定にもとづき一層推進し、連携11大学（福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科（基幹）、北海道教育大学、弘前大学、山形大学、福島大学、信州大学、奈良教育大学、和歌山大学、山口大学、長崎大学、鹿児島大学）と共に各地の行政機関との協働連携による教員養成・研修の高度化を推し進めている。これを海外教員研修とも連動させることで「学校拠点方式」による全国的かつ国際的な普及・構築、そして発信に結びつける。</p>
<p>さらには教育・研究成果を社会及び現職教員へ発信・周知する方法の改善や大学間連携の効果についていっそうの「見える化」を図ることも必要である。</p>	<p>本研究科の教育・研究成果を地域メディアと連携して広く社会及び現職教員へ発信する。また、地域企業とも連携して本研究科の教育・研究成果の地域振興への波及効果を検証し、その共有をデジタル発信（HP・デジタルパンフレット）で行う。大学間連携効果については、教員養成フラッグシップ大学の連携11大学で互いの教育実践報告会の交流・統合実施を推進することで大学間連携による本研究科の「学校拠点方式」による教師の生涯にわたる養成・採用・研修の一体化システムの効果を検証し、その成果を学術誌論文と実践報告書により理論実践の両面で発信して広く「見える化」を図っていく。</p>